

令和7年度 こどもの居場所づくり懇談会 開催報告書

- 1 開催日時 令和7年8月27日（水） 午前10時から正午まで
- 2 開催場所 石巻市ささえあいセンター 3階 ささえあいホール
- 3 参加者数：計73名（講師・事務局等含む） メディア：1社（河北新報）※8/28記事掲載
（参加者内訳表）※途中退席者含む。資料のみ配付の6名は含めず。

こども子育て関係団体（社協含む） ※うち、テーブルファシリテーター10名	46名	事例紹介（話題提供）兼 総合ファシリテーター	1名
石巻市副市長	1名	石巻市職員（保健福祉部）	14名
石巻市職員（教育委員会）	3名	石巻市職員（ほか関係課）	8名

4 全体テーマ 【地域全体でこどもの育ちを見守り、支えるプロジェクト】

5 実施内容

（1）市長あいさつ（渡邊副市長代読）

昨今、全国的に少子化や人口減少の進行に歯止めがかからず、こどもや子育て家庭を取り巻く、複雑化・多様化する課題の解決に向けて更なる対策が求められており、本市といたしましても、これまで以上に、こども施策を総合的に推進するために、本年3月、本市の実情やこども基本法等関係法令を踏まえて、「石巻市こども計画（第3期石巻市こども・若者未来プラン）」を策定いたしました。

計画の基本理念に掲げる「こどもの権利を柱に、地域全体でこどもの育ちを見守り、支える『こども・子育てにやさしいまちづくり』」を実現するためには、市町村、民間団体、地域等、多様な主体が理念を共有し、こどもの最善の利益を、こども目線で考え、協働して取り組むことが重要であります。

本日は、国が示す「こどもの居場所づくりに関する指針」の策定に向けた調査審議機関であります「こどもの居場所部会」の委員を務められました、荒木裕美様に、話題提供をいただくことで、こどもの居場所づくりの重要性に対する関心と理解を深め、また、御参集の皆様との意見交換を通じて、全てのこども・若者が切れ目なく居場所を見つけることができる環境の整備に繋がてまいりたいと考えております。

本日の懇談会を通じて、官民の連携が深まり「こどもまんなか」の居場所の拡充や、地域でこどもの育ちを見守り、支える機運が一層高まりますことを期待申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

（2）石巻市からの報告（報告者：子育て支援課 武山課長）

① 石巻市こども計画～第3期石巻市こども・若者未来プラン～の完成について

【概要】「石巻市こども計画」は、令和7年度から令和11年度までの5カ年の計画として、これまでの「第2期石巻市子ども未来プラン」を継承・発展させるとともに、こども基本法第10条に定める「市町村こども計画」と位置付け、こども大綱等を勘案して新たに、「子ども・若者計画」を包含し、本市におけるこども施策に関する計画を一体的に策定したものです。

計画の策定にあたっては、当該こども施策の対象となる、こども等の意見を反映させるための多様な取組を講じており、石巻らしさも取り入れながら、「こどもまんなか」の視点で、こども施策を総合的かつ強力に推進するため、本計画の基本理念として「こどもの権利を柱に、地域全体でこどもの育ちを見守り、支える、こども・子育てにやさしいまちづくり」を掲げ、3つの視点を基本としながら、「こどもにやさしいまち」、「子育てにやさしいまち」、「ともに進めていくまち」を目指します。この基本理念を実現するために、課題やニーズ等を踏まえて、5つの基本目標・個別目標を掲げ、目標の達成に向けて、指標及び目標値を設定して、各種取組・事業を推進します。

② 石巻市こどもまんなか推進事業について

【概要】本計画の新規事業であります、「石巻市こどもまんなか推進事業」は、「石巻市こどもまんなか宣言」の3本柱の一つである、「子どもの声や意見の聴取・発信」の取組を、更に推進していかうとするものでございます。事業内容につきましては、「1. ご意見を行政に反映するための、対面及びデジタル版の取組」、「2. 市内に公募して決定する、こども・若者委員による『こども・若者企画の実現』を支援する取組」、「3. こども・子育て関係者等からの意見を聴く取組」となっており、本日の懇談会は、本事業の「3」に位置づけられ、今後も継続して実施いたします。

(3) 事例紹介 [話題提供]

発表者：特定非営利活動法人 ベビースマイル石巻 代表理事 荒木 裕美 様

内 容：こどもの声とともに地域全体をこどもの居場所へ

～こどもの居場所部会委員を通じて～

【概要】

- ・はじめに こどもの居場所部会委員
- ・自己紹介 活動の原点 東日本大震災
- ・安心して過ごせる居場所
- ・子育て中の仲間と、必要な子育て環境をふやす、つなぐ。
- ・こどもの居場所づくりに関する指針
- ・子どもセンター「らいつ」について
- ・地域で子どもを見守る環境づくり

《質疑応答》

特になし。

～休憩～

(4) ワークショップ (特非) ベビースマイル 荒木氏に進行をお願いした。

《テーマ①：地域にあるこどもの居場所を情報交換》

《テーマ②：こどもと居場所のつながりを見える化しよう》

《テーマ③：居場所同士がつながるために必要なことを考えよう》

○各グループの話し合いの内容について、別添「グループワーク (A～Jまとめ)」のとおり。

○本日のグループワークのポイントについては、次のとおり。

【Aグループ（遊び・体験の支援）】

★ 地域の力をつける 地域学校の連携

Aグループは、「遊び体験の支援」を中心にお話したが、みんなが納得したキーワードでいうと、「地域の力をつける」というところ、また、「地域学校の連携」というところが、みんな最後に、ここが大事ということで星マークをつけた。

【Bグループ（遊び・体験の支援）】

★ ウェブ活用、バスマップの活用

Bグループでは、Web活用とバスのバスマップの活用を挙げさせてもらった。Web活用では、子どもの居場所の考えや求める場所が変わってきているというところから、繋がりを活かして、Webを使ったゲーム大会とかのような子どもの居場所をつくっていけないかというのが一つ。あとは、バスマップについて、そもそもバスに乗れない子、電車を使えない子、公共交通機関を使えない子たちが結構増えてきているのではないかと。バスマップでバスの乗り方とか、バスマップを活用して、繋がりをふやしていけるような対策をしていくといいのではないかとということが出された。

【Cグループ（食の支援）】

★ 開催地域の片寄り 地域の力 学校で子ども食堂を開催

Cグループは、食の支援チームということで話し合いを行った。まず、地域の資源というところで、子ども食堂や地域食堂がたくさん挙げられたが、開催している場所が、やはり地域によって偏りがある。市内の方が多くて、やはり遠方の方からは、やっていることを知っていてもなかなか行けない、アクセスがない、子どもが一人では行くことができないというところで、移動課題という話も出た。話し合いのキーワードとして、出たところは、やはり「地域の力」というところ。地域にはきっとたくさんの思いを持っている方がいると思うが、そういう方たちの思いを集結させることで、地域の福祉力の向上にも繋がって、取組の方にも繋がっていくのかなという話が出された。また、学校の方で、もし、子ども食堂を開催していただければ、授業が終わって、そのあと宿題をやって、ご飯も食べることができて、となれば、親としても助かるではないかという話が出された。

【Dグループ（食の支援）】

★ 集めた情報を可視化、保護者理解、コーディネータに予算をつける

Dグループは、子ども食堂や食糧支援ということで、食の支援について話した。キーワードは、3つ。一つ目は、そういう集めた情報をしっかりと伝える情報として可視化しましょうという話で、二つ目が、保護者や学校の理解を、あと行政も含めて、理解を促しましょうという話し。最後三つ目が、学校と地域の支援機関をつなげるコーディネーターにしっかりとお金をつけますよという話この3つです。

【Eグループ（生活支援）】

★ こども新聞 ICT活用 各団体の横のつながり

Eグループは、生活支援がメインのグループで、児童クラブを運営する団体さんも多かったが、アイデアとしては、子ども新聞を発行するとか、ICT活用で、その子どもへ情報を取り入れさせてあげたいという意見も出て、最終的には、各団体のその横の繋がりというもの、子どもまんなかになる第一歩だけれども、まだまだ課題も多いよねというお話になった。

【Fグループ（生活支援）】

★ こどもまんなかアプリ タブレットで見れる、石巻の情報アプリ

★ 学校行事の中（総合学習など）で親子見学・体験 こども専用の住民バス

Fグループは、児童クラブの運営や学習塾を運営されている方々のグループとなっていた。その中で、「こどもまんなかアプリ」というのがあったらいいのではないかという話になった。こどもに、イベントの情報だったり、活動をしていたりすることが、なかなか行き届かないで、親で止まっているというところから、小学校とか中学校にタブレットが届いていると思うので、その中で子どもが見られる、この石巻の情報が載っているアプリみたいながあると、子どもがそこをピッとやると、いろんなイベントが出てきて、週末ちょっとここ行きたいのだけどなんていうような、言えるようなアプリがあるといいよねというアイディアが出た。

あと、なかなか親子で新しい施設に踏み入ったりとか、見学に行ったりとか、なかなか行けないということもあるようなので、学校の行事の中に組み込んで、総合学習の時間などに親子でその施設に今日は行ってみましょうというところで見学をして、いろいろ体験をしてくるという活動も行ってはどうかというアイディアが出された。

更に、やはり子どもが居場所に行くのにはアクセスが悪いので、子ども専用の住民バスみたいながあると、今日はここ、セイホクパークまでの送迎は、何時から何時というように、そういうのがまるめて、アプリで見れたりとかするといいのかなというアイディアが出た。

【Gグループ（生活支援）】

★ 保護者へのアプローチ 日常できづいた どうつなげられるか

Gグループでは、そもそも居場所もそうだが、家庭内でいろんな困り事とか課題を抱えている世帯も多いので、そもそも、その課題感の解消とか保護者のMのアプローチも必要なことだよという話をしていた。あとは、まちを歩いていて、この親子をちょっと気になるな、みたいなことも多いと思うが、そういう方たちにどうやって、これは何か解決策が見つかったとかではないんですけど、なんかどうやって、つながれるか、どうやったらつながれるのかなと話していた。

【Hグループ（多様な学びの支援）】

★ SNS 子どもたち自身が情報発信 バス子ども料金 官民協働

Hグループは、多様な学びの支援というグループ。キーワードは三つあった。一つ目が、やはり情報発信のところは SNS と親子、子供たち自身が学校でそういうのを発信するというのが流されれば、もっと知れるのではないかというのが1点目。「SNS」、2つ目は、移動ということで、皆さんからも出ているが、アクセスの部分というのは、お隣の町は300円でバスが・・・とかとい

う話もあって、やはりそういう交通手段があればというのが2点目。3点目は、顔の見える関係づくりということで、今日の場合もそうだが、やはりネットワークと言っても顔の見える関係、どこの団体が何をやっていて、ネットでプラス人と人の信頼でつなぐというそういうのが必要なんじゃないかということで、SNS、移動、それから顔の見える関係づくりの3つのキーワードが出た。

【Iグループ（若者の支援）】

★ コミュニティバス エネルギーのない子人とのつながりが大事

★ 予算、官民協働で使い方をネットワークで考えていくことが必要では

Iグループでは、やはり交通格差みたいなどころ。遠い所だと交通機関も意外に高くて行けない、保護者が車を持っていないと行けないとの話が出て、それをコミュニティバスとか作ってできないかとか、公共地機関をうまく使えるようなシステムを作れないかという話が出ていた。あと、若者の就労支援では、ちょっとエネルギーがない子たちだと、情報を受けとめても、行けないよねというところがあり、どうしたらエネルギーがない子たちも参画できるかということで、やはり人との繋がりとかが大事だよね、じゃあ、どう人と繋がったらいいのだろうねという話もした。あと、最後バスの交通機関の話もそうだが、ちょっと避けて通れない資金の話みたいなどころとして、予算のところをどうしていくかということで、官民連携で一緒になって今ある資源とか、資金をどう運営していくかとかを、ちゃんと対話して使い方を考えていくというところをみんなでやっていく、ネットワークづくりの先とかでそういうところもできたらいいのではないかという話が出ていた。

【Jグループ（若者の支援）】

★ 自転車 情報・・・大人側の意識を変えないといけない そのような機会が必要

Jチームもいろいろ出たが、アクセスとかに関しては、もっとチャリ使おう！みたいな話とかも出たが、その中で、チャリが使えなくなったのって何だっけ、となったときに、大人側がいやちょっと危ないからだよという話が出てきて、情報の話でも、子どもが知っていても大人が知らなかったら行けなかつたりするよね、みたいな話もあった中で、そうすると、その子どもに対してどうこうというのもあるが、やっぱり、その大人側の意識を、めっちゃ変えていかなきゃいけないし、もっと、おおらかにしてかなきゃいけないし、一方でこのまま子どもでちゃんと自分たちはこうしていきたいよねということをお話し合う機会であったりとか、場というものが重要になるのではないかと、そんなことを話した。

○ワークショップ終了後、教育事務局長及び保健福祉部長から受け止めのコメントを行った。

(5) その他

子育て支援課から、今後の懇談会開催の参考とするためアンケート記載協力をお願いした。

(6) 閉会